

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152

メール info@takaoka-hongwanji.jp

☆『高岡教区全戦没者を悼み

平和を願うつどい二〇一八』開催

八月九日（水）午後六時半から、『全戦没者を悼み平和を願うつどい二〇一八』が、西本願寺高岡会館礼拝堂で『日本主義を支えた浄土真宗』というテーマのもと、第一部「全戦没者追悼法要」、第二部「平和を願うつどい」が約百三十名の参加で開催された。第一部では西岡孝了教務所長の調声のもと、第三・第四ブロック（糸岡・砺波・若神・川上・氷見・氷見西組）の出勤をいただき、各教化団体代表者をはじめ、「つどい」に参加された方々が正信偈のお勤め中に焼香をされた。

第二部では、東京工業大学教授の中島岳志先生が「戦前の親鸞思想は、なぜ国粹主義につながったのか」という演題で、著書『親鸞と日本主義』で書かれた戦前の右翼や右派といわれた人々の思想と親鸞の思想が融合していった構造についての講演を行った。先生はこの問題に関心を持った背景や政治学と人間の精神（宗教に対する信仰心や愛国心）がどのように政治と関わっているのかという自身の研究テーマや、学者になろうと考えていた一九九五年当時、人間の心と精神（信仰）に対して、政治が関わっていくという問題が日本にとつ



て大きな課題となっていくと考えはじめ、その結果右翼や右派と言われる人々の宗教とナショナリズムの問題について研究を始めたと述べられた。

また、現代社会で宗教の原理主義が様々な国で沸き起こり、それが大きな政治勢力になることで各地でテロや暴力事件が起こり、世界的に右傾化している状況下において戦前期の問題と現在が非常に似てきていると言われた。

また、当時の多くの国民が戦前の天皇制について惹かれた理由のひとつとして仏教界の影響について述べられ、日蓮主義が超国家主義に深く関与していたが、親鸞の思想が三井甲之ら右翼思想家に影響を与えたと言われ、その後も吉川英治や様々な人物が日本の国体論と親鸞思想を結び付けていた事実を明らかにした。その後、真宗教団の戦時教学の問題や明治維新の思想や王政復古等、多岐にわたって話をされた。

その後、主催者からの問いで、現在のアジアにおける現在の状況や十年後の日本のこと、本願寺教団が取り組む社会問題の取り組み方について先生の見解を伺って「つどい」は終了した。

★平成三十年七月豪雨災害義援金募集

現在、高岡教区では平成三十年七月豪雨災害への義援金を八月末まで募集しております。先に郵送の振込用紙をご使用いただくか、直接教務所までよろしくお願いいたします。

※先に備後教区・安芸教区へお届けした見舞金（各教区十万円）のお礼状が届いております。

また、教務所職員が八月一日から三日出向したボランティア活動と現地調査報告は別紙をご覧ください。

◆高岡教区仏教婦人会連盟真宗入門講座開催

去る七月二十二日（日）、西本願寺高岡会館において仏教婦人会連盟主催の「真宗入門講座」が開催され、四十七名の会員が参加した。

本研修会は、若い女性や今まで仏事などに縁遠かった方、基本的なことから学びたいという方たちを対象に行われたもの。講師の石川了英さん（富山教区水橋組玉永寺住職）は、生老病死は誰もが避けては通れない問題であるが、自分とは無関係のように思いこむのも人間であるとし、「その一方で化粧品を買って老化に対抗し、健康食品を求めて病気を避けようとし、『死（し）に通じる』として四という数字を使うことを忌避するため、四号室だけが無かったりすることが一般的であるくらい死というものについて見えないように触れないようにしている。それらには生老病死を気にしつつも何とかそこから逃れようと目を背け続ける人間の姿が現れているのではないでしようか」と指摘された。その上で、その生老病死に向き合うということが仏教という教えの根本的なテーマであると、仏教の基本的思想を笑いを交えつつ、

平易な言葉でわかりやすくご法話された。

法話後は講師を囲んでの茶話会があり、シークリームとペットボトルのお茶を片手に談笑しつつ、講師に質問するという形で質疑応答も行われた。質疑応答が始まると矢継ぎ早に次々と参加者からの質問があり、内容は荘厳や仏飯、お経をあげるなどの意味など、普段やっている作法などの基本的な意味を確かめるものがほとんどであった。終了後のアンケートにおいても「疑問に思っていたことが聞けて良かった」等の回答があったことから、疑問やわからないことがあっても、それを聞ける人や機会がないということであり、教区仏教婦人会連盟では、このことを踏まえ今後の活動や来年度の真宗入門講座を検討していくとしている。



◆高岡教区仏教壮年会連盟仏教壮年育成研修会開催

去る、七月二十一日（土）午後一時より西本願寺高岡会館礼拝堂において、二〇一八年度高岡教区仏教壮年育成研修会、テーマ『LGBT（性的少数者）理解を深めよう』を開催し、高岡教区内仏壮会員等十一名が参加した。

この研修会のテーマ設定に関しては、昨年、高岡教区仏教壮年会連盟結成四十周年記念行事を行った折、松月博宣師に記念講演いただいたが、この記念講演のなかにおいて、LGBTについて触れられ、最前列に着席の女性と男性を名指しで指名され、男性・女性どちらが恋愛対象であるかを確認されるということがあった。このことからLGBT理解について誤解が生じるのではないかと参加者及び「御同朋の社会をめざす運動」高岡教区委員から指摘がなされ、高岡教区仏教壮年会連盟理事会において協議の結果、LGBTへの理解を深めるということを目的に当年度仏教壮年育成研修会のテーマとした。

まず、講師の岩本智依師（奈良教区奈良組常蓮寺）からのLGBTについての基本的なことに関する講義のあと、全員で話し合い法座を開催した。その法座の中では、「初めてLGBTという方々について詳しい話を聞いた」「世の中には、このような方々がおられるということを初めて認識した」「LGBTという方々がおられるとは認識したが実際に会ったことではないのでなかなか理解はできない」等々の意見が出され、LGBTという方々がおられるということ認識したが、まだまだその方々の想い・考え方の理解までには至らないという意見が多数出された。

教区仏壯連盟では、今回の研修をLGBT理解への出発点とし今後も学びを深めていきたいとしている。



◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

第一回「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会報告

七月二十四日、本願寺伝道本部において、二〇一八年度第一回「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会が開催されました。

中央委員会は、宗務機関、宗門関係団体、教区・特区委員会を代表する五十人以上の委員で組織され、実践運動の総合計画及び年度ごとの重点プロジェクト推進計画を含む実践運動全体の成果を点検・総括し、また、「意見具申」及び一般社会の諸課題について協議することが主な所掌事項とされています。

はじめに、「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）・重点プロジェクトの推進状況と総括、「重点プロジェクト推進のための学習会」の総括について報告があり、続いて、「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）・重点プロジェクトの今後の推進（特に「子どもたちの笑顔のために」募金・推進要綱案）について協議がなされました。最後に、重点プロジェクトの取り組み事例の報告がありました。

協議の中心は、本年度より二年の推進期間で取り組まれる宗門重点プロジェクトの実践目標（貧困の克服に向けて）Dana for World Peace ～子どもたちを育むために～を推進するために全三十二教区・特区で開催された「学習会」の総括と、重点プロジェクトの今後の推進に対するものでした。

「学習会」の総括に対して委員からは、『中外日報』の記事に『（学習会では）厳しい反対を受けることはなかった』とあるが、この認識でよいのか？学習会では多くの反対や修正を求める意見があったと思うが、協議会（全内容）記録のやりとりをみても、それらの意見に対してまともに答えていない。総括とは一方的に都合良く意見を集約することではない、『参加者が百名を超える教区が七教区あり、宗門全体の重点プロジェクト実践目標に対する関心の高さを感じた』と集約書に記しているが、決して関心があつて参加したわけではない。また学習会の開催から重点プロジェクト策定の報告期限までは期間が短く、教区や組に

混乱をまねいた。手続きそのものに問題があつたのではないかと、「経済格差・貧困の克服を課題にするならば、それらを生み出す国や政治のあり方に宗門として提言していくことが重要ではないか」、「貧困問題は大事」ということを前提にするのではなく、宗門重点プロジェクトとして取り組む必然性を明らかにしてほしい」などの意見が出されました。それらの意見に対して、総局、重点プロジェクト推進室からは具体的な回答はありませんでした。

また、「子どもたちの笑顔のために」募金・推進要綱（案）に対して数名の委員から、募金期限、取りまとめ方法、支援先候補、ワンコインを謳う意味などについて質問がありました。それらに対しては、「貴重な意見として聞く。要綱案は企画諮問会議を経て、総局において策定する」との回答がありました。

今回はどの教区・特区からも「意見具申」は提出されませんでした。ある委員から「教区で何度も協議を重ねて提出した『意見具申』に対して、総局や各部署が『検討する』と言っておきながら何も答えないのはあまりにも不誠実。その対応が、『意見具申』では何も変わらないとのあきらめムードを生み出しているのではないか」との指摘がなされました。

「結論ありき」で進められる宗門の運動のあり方に教区・組から異議を申し立てても、「手続きは踏んでいる」と無視する教団中枢の態度は、「運動」からは最も遠い姿だと感じます。「貧困問題への取り組みは西本願寺教団を世界へ発信するチャンス」との総長の言葉が印象的でした。「社会貢献」という名のもとに教団を社会へアピールする運動、これが今の「宗門の実践運動」の正体なのだと確信しました。

かつて私たちの教団は、社会貢献という名のもとに戦争を遂行し、ハンセン病患者強制隔離国策などに協力しました。私たちの教団が「同じ過ちを起こさない」という「運動」の願いを見失い、社会から信用を失ってしまふことを危惧します。教区・組の現場から粘り強く声をあげ続けていくことが大切です。

【教区委員会副委員長・中央委員会委員 林 史樹】

◇これからの日程（8/14～9/14）◇

8月	教区・財団行事	教化団体・組行事
14	常例法座 教務所夏季休業～17日	
20	聖典セミナー	
21	得度習礼講習会～22日 於：福光教堂	
22		長寿苑ビハーラ活動
23		ブロック講社大会～24日 於：磯はなび
24		仏婦・寺女合同研修会
25		門徒推進員中央教修了者のつどい ブロック保育大会～26日 於：東海
27		連区布教使研修会～28日 於：富山
31		青年布教使打合せ
9月		
3	常備会	ビハーラ研修会
4	僧侶研修会スタッフ研修会	連区仏教壮年連絡協議会～5日
5		ダーナバザー準備～7日
6		ヤスクニ委員会
8		ダーナバザー
10	ブロック組長会～11日 於：金太郎温泉	
12		連区ビハーラ研修会 於：石川 ブロック少年指導者研修会～13日於：東海
14	常例法座	

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.
◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25
□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎8/25（土）：大竹 輝道 氏

（本願寺派布教使・三重県聞光寺住職）

「仏様の願い」

□8/26（日）：安居 美可子 氏

（高岡教区伏木組禅龍寺）

◎9/1（土）：大竹 輝道 氏

（本願寺派布教使・三重県聞光寺住職）

「人の苦しみ」

◎9/8（土）：大竹 輝道 氏

（本願寺派布教使・三重県聞光寺住職）

「保護司としての30年間」

□9/9（日）：未 定

（富山教区）

◎9/15（土）：大竹 輝道 氏

（本願寺派布教使・三重県聞光寺住職）

「子どもたちの力」

◎9/22（土）：石田 智秀 氏

（本願寺派布教使・岐阜県神通寺住職）

「未 定」

☆お知らせ☆

「法輪せんべい」販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（170袋） 8,300円

・1組（10袋） 500円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内
（寺族青年会担当）

Tel. (050) 5587-7708(代表)

メール hourin18@gmail.com

【西本願寺高岡会館9月の常例法座】

ご講師： 布 埜 裕 之 氏

（ 兵 庫 教 区 ）

ご講題：『阿弥陀さまのお慈悲』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。